

宮里藍引退

今季限り 29日会見

元世界1位 31歳、ゴルフ界けん引

女子ゴルフの元世界ランク1位の宮里藍(31)＝東村出身＝が26日午後4時、今季限りで現役を退く意向を表明した。マネジメント会社を通じ、東京都内で29日に記者会見を開くことを発表した。2003年のプロ転向以来、日米で14年余にわたって活躍して「藍ちゃん」の愛称で親しまれ、国内女子ゴルフ界の隆盛をけん引した。06年から米ツアーに本格参戦し、9勝を挙げ、10年に世界ランキング1位になった。

マネジメント会社の発表では、引見当日に「宮里本人の言葉でお伝えする所存です」とした。宮里は兄聖志

と優作もプロゴルファーのゴルフ一家だ。兄2人に続くように幼児期からゴルフを始めた。レッスンプロの父、優さんの指導でめきめき力をつけ、アマチュア時代から活躍した。

東中を卒業後に東北高(仙台市)に進学し、2年時の02年に釜山アジア大会金メダル、03年にアマチュアながら国内ツアーで初優勝して高3でプロデビュー。04年には第17回ダイキンオーキッドレディストーナメントで県勢として初優勝し、05年の日本女子オープン選手権でも優勝。

06年からは米国のLPGAツアーを主戦場とし、09年には米女子ツアーのエビアン・マスターズで念願の米ツアー初勝利を手にした。

昨年は26試合に出場し、賞金ランキング67位で米女子ツアーのシード権を獲得。シーズン終盤には腰痛を発症していた。今年のツアー初戦となったホンダ戦は56位に終わり、3月のダイキンでは59位。5月の中京テレビブリヂストンレディースは通算11アンダーの6位で終えていた。



米ツアーで初優勝し、笑顔の宮里藍。2009年7月26日、エビアン・マスターズGC